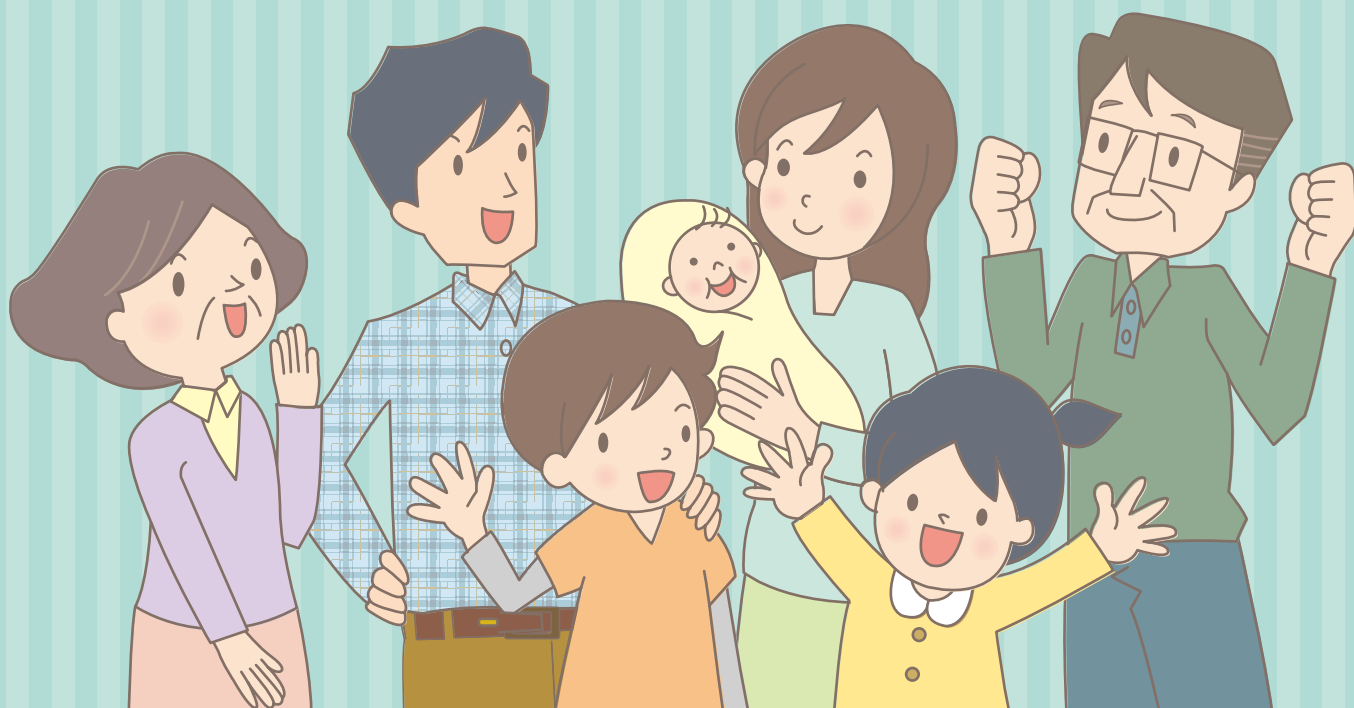


若年性認知症 支援ガイドブック

相談を受ける人が知っておきたいこと



はじめに

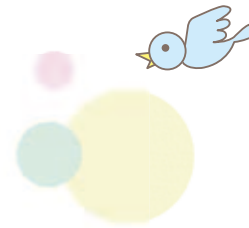
65歳未満で発症する若年性認知症
全国では、4万人近くいると言われています

その家族である配偶者や子どもを含めれば、もっと多くの人が
不安の中にいることになります

平成24年度に作成した
「若年性認知症ハンドブック」（平成30年3月改訂3版発行）は
そのような人たちに安心していただくためのものです

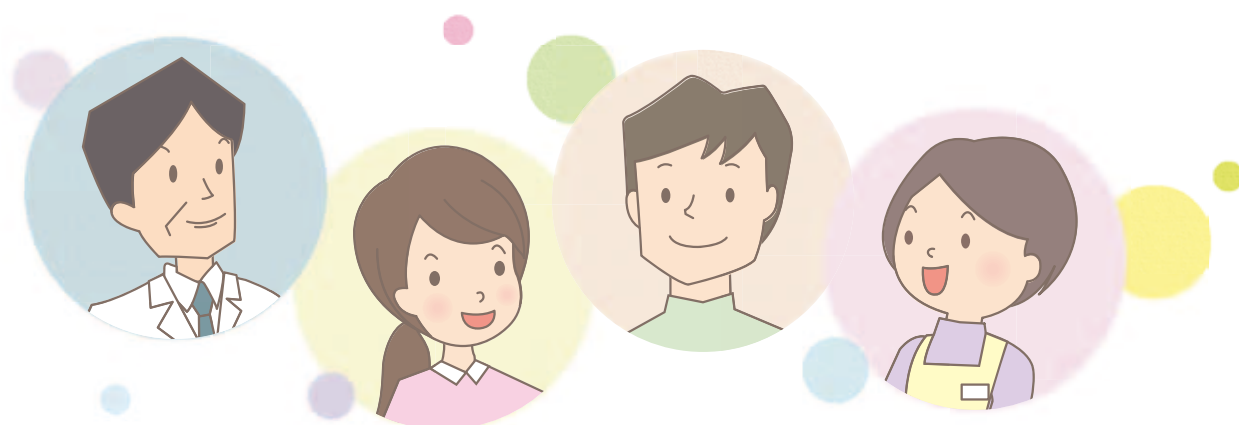
今回は、ご本人や家族から相談を受ける人に読んでいただきたい冊子です
不安を受け止め、話を聴いてあげてください

いま、何が必要か、いま、何ができるのか、
いっしょに考えましょう



このガイドブックの使い方

1. 相談者の話をよく聴きましょう。
2. 相談者の置かれた状況を把握しましょう。
～認知症と診断されているか、まだ受診していないかなど～
3. 相談者の困りごとの内容を理解しましょう。
～心配なので受診したい、経済的なことで将来が心配など～
4. 相談を受ける方は予め、このガイドブックに目を通しておいください。
相談対応時には、相談者の状況やニーズに応じ、5、6ページのチャートを参考に適切な制度やサービスの情報をわかりやすく説明します。
一度に説明すると混乱する場合もあるので、必要な事柄から順に説明し、場合によっては継続して支援しましょう。
5. 「若年性認知症ハンドブック」に対応している場合は当該ハンドブックのページが示してあります。



はじめに.....	1
若年性認知症の人や家族の相談に対する対応・支援の流れと制度・サービスのキーワード ...	5

第1章 基本事項の理解 7

1 若年性認知症の実態	7
2 原因疾患と有病率	8
3 若年性認知症とうつ病（状態）との違い	9
4 軽度認知障害（MCI）、診断が遅れる理由	10
5 アルツハイマー型認知症	11
6 血管性認知症	12
7 前頭側頭型認知症	13
8 レビー小体型認知症	14
9 若年性認知症のその他の原因疾患	15
10 高齢者の認知症との違い	16

第2章 相談があった場合の対応 17

1 認知症の人の家族の心理状態	17
2 親が認知症である子どものこと	19
3 認知症と診断された人の心理状態	21

第3章 受診勧奨 22

1 医療機関の情報	22
2 診療科	23
3 受診時の心得・注意	24
4 もの忘れ外来の診察の流れ	25
5 治療薬	26
6 認知症の行動・心理症状（BPSD）に対する治療・対応	27
7 非薬物療法	28
▶ 遺伝について	28
▶ 認知症初期集中支援チーム	28

第4章 日常生活上の留意点 29

1 “気づき”のポイントとチェック項目	29
2 日常生活の工夫	30
3 車の運転	31
4 家族支援・本人支援	32

第5章 利用できるサービス・制度等 33

1 最初の相談先	33
2 会社等に勤務している場合	34
①企業の障害者雇用 ②企業の介護休業制度	34
③傷病手当金	35
④障害者手帳 ⑤自立支援医療（精神通院医療）	37
⑥障害年金	38
⑦給料が支払われないとき ⑧医療費や介護費が高額になったとき	39
3 退職後に受けられるサービスや制度	40
①年金 ②健康保険 ③雇用保険	40
④住宅ローン ⑤生命保険	41
▶ 高度障害保険金	42
⑥障害者総合支援法	43
⑦国民年金保険料の免除制度 ⑧生活福祉資金貸付制度 ⑨子どもの就学資金	45
4 復職・再就職を考える	46
①医療機関のソーシャルワーカー ②ハローワーク（障害者専門窓口）	46
③障害者職業センター ④障害者就業・生活支援センター	46
5 介護保険	47
6 生活に困った場合	49
①日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業） ②生活保護制度	49
7 成年後見制度	50

第6章 その他 51

▶ 相談窓口	51
①専門の医師に相談したいとき	51
②若年性認知症について相談したいとき	51
③介護全般について相談したいとき	52
④ホームページ	52
▶ サービス等の申請先	53